

実施要領 様式11(第13条関係)

【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成21年5月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0270500630
法人名	有限会社佐藤器機
事業所名	グループホームあけぼの
所在地	青森県五所川原市稲実字開野177-20 (電話)0173-33-3171
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成21年1月23日

【情報提供票より】(平成20年12月7日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年1月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤	人, 常勤換算 4人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋建て	造り
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	13,500 円	その他の経費(月額)	理美容代	実費	他
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—		
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ		円
	または1日当たり		円		

(4)利用者の概要(平成20年12月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	0 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	76.7 歳	最低	63 歳	最高	84 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 白生会胃腸病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者は認知症高齢者のケアの経験が豊富であり、また、職員は利用者の日々の状態に合わせたケアを提供し、利用者が不穏な状態の時でも安心して落ち着けるような声かけや対応が行われている。

県や地区のグループホーム協会に加入し、管理者や職員は、他のグループホームとの交流を持つ機会が確保されている。また、ネットワークを活用したり、相互研修を実施することで職員育成にも取り組んでいる。

地域の高校のインターンシップの受け入れやホームヘルパー実習の受け入れが活発に行われ地域の福祉人材の育成に積極的取り組まれている。

利用者一人ひとりを尊重し、年長者と接するのに適切な呼び方や声かけを行っているほか、言動を否定せず、利用者の羞恥心に配慮したケアを実践している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人ファイル等は利用者や訪問者の目が届かないように、事務室に保管している。

利用者一人ひとりの居室は、利用者が入居前から利用している家具や電化製品、小物など馴染みの物が多く持ち込まれ、個性ある居心地の良い居室作りがされている。

【特に改善が求められる点】

高齢者虐待を発見した際の対応方法を具体化したマニュアルを作成し、職員間での対応に関する共通理解を図ることに期待したい。

研修受講後に復命書等による報告書を作成することに期待したい。また、前年度の研修主催者等に問い合わせるなどし、研修方針や職員の均一な研修参加のために年間研修計画を作成することに期待したい。

やむを得ず身体拘束を行う場合の家族への報告、拘束理由や実施期間の記録、同意の得方などを検討し、取り決めを作成すると共に、全職員が理解することに期待したい。

災害発生に備えて食料や飲料水、防寒用品など想定できるものを準備することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の結果を基に話し合い、書類を整備したり、内部で学習会を開くなど、改善できる事項から具体的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価を実施するにあたり、評価の意義や目的について職員に説明を行い、全職員で自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催しており、参加メンバーは会議の意義や役割を理解し、ホーム運営に関する様々な意見等を話し合っている。また、自己評価や外部評価結果も報告している。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>家族等が訪問した際に意見や要望を聞きだすよう努めており、ホーム内外の苦情受付窓口の掲示や意見箱の設置もされている。また、意見や要望があった場合には、職員間で協議し、業務に反映するように取り組まれている。</p> <p>利用者の暮らしぶりや健康状態等、職員の異動等について、訪問時や電話で随時報告している。利用者の金銭の出納状況は領収証を添付して、定期的に報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃から近隣の人たちに気軽にホームへ立ち寄ってもらうよう、外出時に地域の人たちと挨拶を交わしたり、ホーム主催の納涼祭を開催したりするなどの取り組みがされている。</p> <p>また、地域に自治会等が形成されていない地域であるが、積極的に地域に関わり、住民からホームの理解が得られるよう懸命に努力している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者及び職員は、地域密着型サービスの主旨を理解し、事業所独自の理念を基に、利用者が地域との関わりを持ちながら生活できるよう努めている。</p> <p>また、理念をホーム内に掲示し、職員会議において話し合うなど共有化を図っており、日々のサービスに反映されるように取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議での協議内容をホーム運営に反映させたり、他の事業所との交流や管理者同士のネットワークを活かした情報収集なども活発に行われ、サービス向上に活かされている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者が安心して利用を開始できるように、ホーム見学を実施するなど、ホームに馴染めるよう取り組んでいる。また、ホームのサービス内容等について丁寧に説明を行っているほか、利用者や家族双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。</p> <p>職員は、利用者との日々の暮らしから様々な場面で思いを共有する機会があり、テーブル拭きや茶碗拭き、洗濯物たたみなど生活の中で得意な分野で力を発揮できるよう働きかけているほか、利用者職員が助け合いながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画作成にあたり、利用者の意見や家族等の意見も可能な限り取り入れて作成するように努めているほか、利用者に関わる職員の意見や気づき、関係者等の意見も反映させており、利用者の状態に合わせた個別具体的な介護計画を作成している。</p> <p>また、利用者の重度化や終末期の対応についての事業所としての方針を明確にし、利用者や家族等からの同意を得る共に、医療機関とも早期から話し合い意思統一を図っている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>行事等での外出のほかに、天候の良い日に散歩をしたり、近隣商業施設への買い物など、利用者の気分転換になるよう日常的に外出の機会を設けている。また、利用者の身体状態に合わせ、安全な外出が出来るように取り組まれている。</p> <p>食事は、利用者の嗜好把握と管理栄養士の助言を得て栄養バランスの取れた献立の食事が提供されている。</p> <p>利用者が過ごすホーム内は、家庭的な調度品を揃えるほか、利用者の作品などを掲示し、家庭的な雰囲気作りが行われている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者と職員は、グループホーム独自の理念「地域社会との交流を持ち、安心と尊厳のある生活を送り、住み慣れた地域でより家庭に近い馴染みの住みか」「心の健康をモットーに自立支援を目指し介護を」を作成し、地域密着型サービスの役割と共に理解を図っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に掲示し、職員会議で話し合い共有化を図っており、日々のサービスに反映されるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日頃から近隣の人たちに気軽にホームへ立ち寄ってもらおうよう、外出時に地域の人たちと挨拶を交わしたり、ホーム主催の納涼祭を開催したりするなどの取り組みがされている。また、高校生のインターンシップやホームヘルパー養成研修の実習の受け入れのほか、ホーム見学やボランティアの受け入れも随時行っている。外部の方を受け入れる際には、事前にオリエンテーションを行い注意事項を説明するなど、利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施するにあたり、評価の意義や目的について職員に説明を行い、全職員で自己評価に取り組んでいる。また、前回の評価結果を基に改善策を検討し、今後のより良いケアサービスの提供に取り組んでいる。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催しており、参加メンバーは会議の意義や役割を理解し、ホーム運営に関する様々な意見等を交わし話し合っている。また、自己評価や外部評価結果も報告している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政には、ホームのパンフレットの配布をはじめ、利用者の生活に関わる様々な相談やホーム運営に関する相談等を行い、連携を図っている。また、自己評価、外部評価の結果も報告している。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に参加し、内部研修を行うことで、全職員が制度を概ね理解している。現在、制度を利用している方がいるほか、必要に応じて情報提供等の支援を行う体制が整っている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての外部研修に参加し、内部研修を実施することで、職員の理解が図られており業務に活かされている。しかし、高齢者虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等についての具体的な取り決めを作成するまでには至っていない。	○	高齢者虐待防止関連法に関する職員の知識や理解は十分ではあるが、虐待を発見した場合などの対応に関する取り決めが整備されていないため、マニュアルを作成することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書等を基に、ホームの方針やサービス内容についての説明を行い、書面にて同意を得ている。また、契約改訂時や退去の際にも家族等に十分に説明を行っているほか、退去時には不安が生じないように情報提供等を行うなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや職員の異動等について、家族等に訪問した際に伝えているほか、健康状態等についても随時電話で報告している。また、利用者の金銭の出納状況も領収証を添付し、定期的に報告し確認して貰っている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問した際に意見や要望を聞きだすよう努めており、ホーム内外の苦情受付窓口の掲示や意見箱の設置もされている。また、意見や要望があった場合には、職員間で協議し、業務に反映するように取り組まれている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動による利用者への影響について理解しており、できるだけ馴染みの関係で支援できるように配慮している。また、職員に異動があった際には、利用者に紹介をし、新しい職員への十分な引継ぎも行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の質の向上にむけた研修等の必要性を認識し、職員の力量や経験を考慮し、出来るだけ平均的に研修に参加できるようにしているが、研修受講後に報告書等を作成していない。また、職員が段階的に研修を受けることができるよう年間研修計画を作成するまでには至っていない。	○	研修受講後に復命書等による報告書を作成することに期待したい。また、前年度の研修主催者等に問い合わせるなどし、研修方針や職員の均一な研修参加のために年間研修計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム協会に加入し、管理者や職員は、他のグループホームとの交流を持つ機会が確保されている。また、ネットワークを活用したり、相互研修を実施することで職員育成にも取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心して利用が開始できるように、ホーム見学を実施するなど、ホームに馴染めるよう取り組んでいる。また、ホームのサービス内容等について丁寧に説明を行っているほか、利用者や家族双方の意向に沿ったサービス開始となるよう調整している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者との日々の暮らしから様々な場面で思いを共有する機会があり、テーブル拭きや茶碗拭き、洗濯物たたみなど得意な分野で力を発揮できるよう働きかけており、利用者と職員が助け合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の思いや意向を日々の関わりの中で把握するように努めている。また、利用者の状態により意向等が十分に把握できない場合には、職員間で話し合い、利用者の仕草や表情などから把握するよう努めている。必要に応じて家族や利用者の状況に詳しい関係者からも情報を収集し取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたり、利用者の意見や家族等の意見も可能な限り取り入れて作成するように努めているほか、利用者に関わる職員の意見や気づき、関係者等の意見も反映させており、利用者の状態に合わせた個別具体的な介護計画を作成している。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、実施期間を明示し、期間終了後には見直しを行っている。また、利用者の状態変化や意向等に変化があった場合には実施期間中でも随時の見直しを実施している。見直しを行う際には、家族等の意見や職員の気づき等と共に再アセスメントを実施し作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	市内には、系列で通所介護を開所しており、自主サービスとして通院介助や理美容院、商店への外出、外食をする機会なども設け、利用者や家族等の要望に応じて柔軟な対応がされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握し、利用者や家族等の希望する医療機関に受診できるよう取り組んでいる。また、体調変化時や心配事がある場合はいつでも気軽に相談できる体制が整っている。受診結果は電話や訪問時に報告している。必要に応じて受診時に家族も同行してもらい、医療情報の共有も行われている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化や終末期の対応について、事業所としての方針を明確にし、利用者や家族等からの同意を得ると共に、医療機関とも早期から話し合い、意思統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重し、年長者と接するのに適切な呼び方や声かけを行っているほか、言動を否定せず、利用者の羞恥心に配慮したケアを実践している。職員は個人情報保護法について概ね理解しており、個人ファイル等は利用者や訪問者の目が届かないように、事務室に保管している。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて言動を急かすことなく支援している。また、利用者のその日の体調や精神状況にも合わせた柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好状況を把握した献立を作成している。利用者は個々の意思や身体状況に応じて、調理の準備や後片付けに参加している。また、食事の際には職員も利用者と同じテーブルで、さりげなくサポートをしながら食事を取り、会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴の好みや習慣を把握し、羞恥心や安全面に配慮しながらの入浴支援を行っており、時間や回数など利用者の意向に沿うように対応されている。また、入浴を拒む利用者には、声かけ等を工夫して促しているほか、清拭や足浴での対応も行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴や希望、力量等を把握しており、日常生活にて野菜洗いや洗濯物干しなどの役割や、トランプ、将棋、パソコンなどの楽しみごとを職員のサポートにより行われている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事等での外出のほかに、天候の良い日に散歩をしたり、近隣商業施設への買い物など、利用者の気分転換になるよう日常的に外出の機会を設けている。また、利用者の身体状態に合わせ、安全な外出が出来るように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束についての理解をしており、日々、身体拘束は行わないという姿勢で取り組んでいるが、やむを得ず身体拘束を実施しなければならない場合の理由や方法、期間、経過観察等についての記録を残す体制が整備されていない。	○	やむを得ず身体拘束を行う場合の家族への報告、拘束理由や実施期間の記録、同意の得方などを検討し、取り決めを作成すると共に、全職員が理解することに期待したい。
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ利用者が活動するホーム内は施錠せず、外出傾向がある利用者には見守りや付き添いなどのケアが行われている。無断外出に備えて運営推進会議を通して、近隣から協力が得られるように働きかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の指導を受けながら、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。しかし、災害発生時に備えて食料や水、寒さをしのげる物品等を準備するまでには至っていない。	○	災害発生に備えて食料や飲料水、防寒用品など想定できるものを準備することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の身体状態や疾病等に配慮した栄養バランスのある献立が管理栄養士の指導を受け作成している。また、毎日、食事や水分の摂取量を個別に記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防や対応マニュアルを作成しており、必要に応じてマニュアルに基づいた学習会を行っている。行政等からの最新情報を基にマニュアルの見直しを行っているほか、得られた情報を家族等に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、家庭的な調度品をはじめ、共有スペースに畳、掘りごたつが置かれ、職員と利用者が共に作成した季節感のある作品なども多く飾られている。また、職員がたてる物音やテレビの音量、光量は適当で、快適に過ごせるような環境づくりがされている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室は、利用者が入居前から利用している家具や電化製品、小物など馴染みの物が多く持ち込まれ、個性ある居心地の良い居室作りがされている。		

※ は、重点項目。